

かお・人・interview

2022年3月17日

団体長
インタビュー



地質調査で大地と会話 DXと確かな技術で 県民の安心安全を担う

(一社)福岡県地質調査業協会 理事長
香月 裕宣 氏

香月裕宣氏は、技術委員長を8年務め、令和3年5月に就任。業界を更に発展させるためには、会員各社の安定した経営基盤づくりが最重要課題と捉える。技術委員長時代から、積極的に業界の周知活動に奔走。今後その役割を果たしていきたいと力を込める。業界の現状と未来に向けて、新体制の取り組み、今後の活動方針などを伺った。

新年度の抱負

会員各社の経営安定と人材確保に向けた活動、これが協会の役目だと思っています。公共事業の中、エッセンシャル



▲現場技術の伝承プロジェクト

業務の課題と未来

DXの取り組みなど課題はいくつもあります。調査結果を正確に伝える報告書も、その中のひとつです。私たちの仕事は地質をデータ化、解析し報告書にするのが仕事です。その内容は正確に伝わらないと意味がありません。読

み手が専門外の方を想定し文章の伝え方を工夫することも重要だと考えます。

また、人材不足は喫緊の課題です。業界の平均年齢は約50歳。先細りの業界にならないためにも、若手が入職しやすい環境、安定した受注が必要です。公共事業は、メンテナンスの時代に入っています。橋やトンネル、道路法面などの構造物の後ろは山。維持管理に必要な地質調査、そこに新しいチャンスがあると考えます。

ICTやDXの技術は今後も進歩を続けるでしょう。だからこそ現場で知りえる技術・技能の継承は必要不可欠。データからイメージする能力は現場を知って育つ力です。協会では、県職員と民間の若手で現場を歩き、その結果を



◀現場技術の伝承プロジェクト

今年度の事業計画

(一)地質調査業の社会的地位の向上について(二)地質調査事業量の確保と受注条件の改善について(三)経営基盤の確立について(四)技術者資格・教育について(五)技術向上と技術者養成対策(科学講演会・技術者資格・教育・技術向上と技術者養成対策・現地勉強会など)(六)広報活動(七)労働安全対策(八)その他

すべての事業計画は重要ですが、現場技術の伝承につながる「現地勉強会」は力を入れています。今はコロナ禍で難しいですが、今後は、もっと市民と向き合えるイベントを開催したいと考えています。業界の役割を直接発信し、まずは知ってもらおう。すぐに人



▶平成24年度市民のための科学講演会

県に対する要望

要望は、設計・工事・行政・地質の4者会議のさらなる活用をお願いしたいと思います。改正品確法で調査業務の品質確保も重要になりました。

地質リスク情報の共有は課題点や改善点の対応に不可欠です。他に、分離発注・発注の平準化など、意見交換の場ですっきり伝えていきたいと思っています。

趣味や健康法、特技など

私生活が充実していると、仕事にも好影響を与え、結果的には仕事のモチベーションもアップします。最たるものは、夫婦で過ごす時間です。私はウォーキングもカラオケも妻と一緒に出かけます。ともかく、ふたりで良く笑い、よく話します。

毎日のように私の話を聞いていたせいか、妻も地質に興味を持つようになり、数年前には夫婦そろって防災士の資格を取ってしまいました。



PROFILE
(一社)福岡県地質調査業協会
会長、(株)ジオテック技術士事務
所 代表取締役。
北九州市出身、1962年生まれ
60歳

協会の事業

1. 地質調査技士試験の実施
2. 地質調査技士登録更新講習会の実施 (5年毎の更新)
3. 現場見学会 (応用地質学会九州支部との共催) の実施
4. 各種研修会の実施
5. 技術講演会の開催